

スタッフ紹介

礼 編集部：お茶汲み子

お客様やスタッフのみんなが、「いつも美味しいね」と言って頂けるお茶を入れられることに日々感謝しております m(_)_m

礼 編集部：次女

オーストラリアには「オーストラリアン・タイム」なるものが存在すると言われていますが、それを身近で体験することが編集業務をするときに多々あります。例えば、記事にする内容の詳細やイメージ画像をオーストラリア企業にお願いするとき。担当者に連絡し、相手の返事を待つわけですが、待てど待てど連絡が来ない。焦って、追加でまた連絡すると、その日のうちにあっさり返事が来るのです。そして、連絡が来るときは締め切り間際。のんびりリラックスした生活を送るパースの人々。彼らの中には、世界中の「時間」とはちょっと時計の針の動きが違う「オーストラリアン・タイム」が流れていることをひしひしと感じます。そんな独特な時間感覚を持ったパース、たとえ焦るべき場面でも焦りを見せずに冷静沈着(?)に、時間ぎりぎりまで熟孝し(?)、物事を行う術を教えてくれてありがとう！

礼 制作部：forget Me

何をどうすれば、感謝されるような良い仕事ができるのか、それを見極めるのは至難の技だ。そしてここオーストラリアでは、国や文化などのバックグラウンドの違いに起因する多様性が、それをさらに困難にする。そんな訳で、パースに来てからの私はクライアントに限らず、人と向かい合う際はいつも戦々恐々である(いや、日本でもだったか)。海外で、オーストラリアのパースで、いち社会人としての俺は、いったいどこに向かうのだろうか。つか、これからもここで生きていけんのか？俺。つか、そもそも「感謝」って何だっけ？

THE PERTH EXPRESS Japan Australia Information Link Magazine
-The First Edition 15th February 1998
Imanari Media Corporation Pty Ltd ABN: 29 121 633 092
66 Parry Street Perth WA 6000 P.O. Box 8717 Perth BC WA 6849
Tel: 08 9228 0209 Fax: 08 9228 0210
info@thepertexpress.com.au www.thepertexpress.com.au

創刊記念号恒例のスタッフ紹介。今号の特集は『あなたの言いたいこと』をスペシャル版としてお届けしますが、表題の『パースへの御礼』にからめ、本誌パースエクスプレスのスタッフが『御礼』をテーマに“言いたいこと”を発表します。

礼 編集部：ほくろさん

今、私が身をおいている状況は思いもよらぬ方向からの出会いのため、当初の理想とは違ったものになりました。それは、良い意味です。思いもよらぬ方向からの出会いは、私にとってもステキな刺激と経験をくれました。そのおかげで毎日がとても充実しています。理想とは違っていても、それよりもステキで新しい世界が私の前に広がっています。その出会いというのは、今の編集というお仕事です。そんな思いもよらぬ出会いに巡り会えるように常に何事にも興味を持ち、アンテナを張り、物事を柔軟に捉えて、チャレンジして生活していけば、また楽しいワクワクするような日々が送れる。そんな予感がするのです。そんな出会いをくれたパース。ありがとう！！

礼 配達部：NAO

パースに来て、たくさんの素晴らしい人たちと出会い、人と人の繋がりはとても大切なことだと再認識させてもらいました。パースエクスプレスのスタッフはもちろん、パースの地元の人たちとも仲良きさせてもらっています。言葉が通じないことはあっても、心が通じなかったことはほとんどない。ここに来て本当によかった、そう思わせてくれた街、パースです。感謝。

礼 編集部：ネし

広告を掲載してくれて有難うございました。インタビューに応じてくれて有難うございました。情報や写真を提供してくれて有難うございました。印刷してくれて有難うございました。読んでくれて有難うございました。みなさんのご協力に感謝しております。本当に有難うございました。御礼申し上げます。

寄稿者紹介

礼 宇田 有三

好きなことを長く続ければ、報われるのだなあ。しかし、その分、周りの人の寛容に支えられているのだなあ。謙虚な姿勢と decency を保ち続けたいなあ。

90年に教職を辞し、フォトジャーナリズムを学ぶため渡米。92年に当時紛争地だった中米・エルサルバドルでの取材を皮切りに、フリー・フォトジャーナリストとして活動を開始。以後、ビルマ(ミャンマー)やニカラグア、グアテマラ、アメリカ合衆国など世界各地で取材

活動を行う。その功績が称えられ、数々の賞を受賞。現在、外国人がビルマ国内で発行する初めての写真集を販売予定。1998年の本誌への写真提供をきっかけに、休載を挟みつつも10年以上続くルポタージュ、「On the Road」は2000年からスタートした。

礼 藤井 満

今住んでいる能登半島の先端部は人口わずか7万人。なのに数百種類の祭りがあり、30種類の海藻を食べ、おそらく日本一の発酵食文化を育てている。東京や大阪の「7万人」と比べると、その豊かさ、生きる力の強さは歴然としている。おそらく戦前のような大恐慌が起きたとき、田舎の価値と、都市の脆弱さが根本的に認識されるのだろう。その時には日本もおしまいだらうけど。

現役新聞記者として、静岡・大阪・京都・愛媛・島根・石川に勤務。山間部や離島を中心に過疎化、労働力不足、そして少子高齢化などが進む日本での問題を追いつける。2012年の本誌Vol.168「それでも生きる 第4回」の連載を機にVol.172から「ムラの行方」の連載が開

ムラの行方

始した。日本の過疎化したムラに生きる人々の現状、ムラの建て直しの様子などを現地へ赴き、自身の見聞で取材したりリアルなレポートとなる。著書には、「ニカラグアを歩くー革命と内戦の今昔」、「石槌を守った男」、「消える村 生き残るムラ」などがある。

礼 チャド・マレーン

1998年のパースエクスプレス創刊号発行に携わり、その年の4月にはNSC(吉本芸能総合学院)に入学していたチャド・マレーンのチャドです。あれから15年の歳月が流れたんですね。早いものです。近況報告ですが、舞台、ライブ、テレビ、ラジオといった感じお仕事をさせて頂いていますが、裏方の仕事でも忙しくさせて頂いています。映画やお笑いライブの英語の字幕付けやトークショーの通訳、母校のNSCでも先生をやらせて頂いています。おとといは広島、昨日は東京、今日と明日は大阪、あさっては東京といった具合ですが、「新幹線にマイレージがついたらええな〜あ」！一服中の、汚い大阪の喫茶店からの『言いたいこと』でした。

パース出身のオーストラリア人。NSCでは、初の外国出身合格者だった、日本で活躍するお笑い芸人。加藤貴博とコンビ名『ジパング上陸作戦』を結成し、2009年には『チャド・マレーン』に改名。「ボケ」担当で、よしもとクリエイティブ・エー

ジェンシー所属。映画出演や各書翻訳、声優など漫才だけではなく、様々なジャンルで活躍する。渡日前、本誌編集スタッフとして力を発揮し、以後パースエクスプレスでは「パースからお笑い芸人が誕生」にて毎月、氏の活動報告をしている。



(左: vol.173, 中央: vol.176, 右: vol.178)

それでも生きる 全3回
2012年1月号(Vol.168)～2012年3月号(Vol.170)
ムラの行方
2012年5月号 (Vol.172)～連載中



(左: vol.174, 中央: vol.175, 右: vol.177)

パースからお笑い芸人が誕生
1998年4月号
(Vol.3)～連載中



(左: vol.173, 右: vol.178, 下: vol.180)